

令和6年10月4日

新入生保護者説明会資料

荒川区立第三中学校長

小 柴 憲 一

本校の経営方針の2つの柱と大きな特徴

1 社会を構成する一員としての自覚をもたせます

- 義務教育修了まであと3年間。
- 成人といわれる18歳までに、社会を構成する一員としての自覚をもたせます。
- そのため自治活動を活発にし、自分たちの学校生活を自分たちで過ごしやすくさせます。
- キャリア教育は職業教育のことではなく、社会を構成する一員としての自覚をもたせることを目的としています。
- 職場訪問・勤労留学は、あくまでも手段の一つであり、大切なことは自治の力で問題を解決したり、地域貢献することに喜びを感じたりすることになることです。

2 一人一人の子どもを大切にします

- 公立学校には様々なお子さんが在籍しています。
- お子さんによっては、ある分野にたぐいまれな能力をもっていたり、発達上の障害があったり、これまでの生育で大きな病を患った経験があったり、人との関わり方に目立つ特徴をもっていたりなど、それらの特性は多様です。
- お子さんは様々な特性のある友達と接することにより、あらゆる人の特性を理解し、社会性が養われていきます。
- 第三中学校は、一人一人のお子さんの特性を大切にします。

3 大きな特徴 ―生徒会活動―

- 「1」で記載したように自治活動、いわゆる生徒会活動が自主的で積極的なので、自分たちで居心地の良い空間を作りあげていっています。
- 例えば、今年度は全校が一律で実施する「いじめアンケート」を実施したところ、生徒会本部が「いじめの視聴者をなくそう ～画面の先の話じゃない！～」というスローガンを打ち出し、各専門委員会や部が「自分の委員会や部でできることはないか」とそれぞれが取り組みを展開しました。
- 「いじめ行為」は子どもたちが見ているところ知っているところで発生するのが学校で起こるケースの特徴であり、本校のような生徒会組織の環境では起きにくくなっていきます。
- したがって、教員は毎年入れ替わりがありますが、生徒会組織の力は継承されていき、三中の伝統も受け継がれていくのです。

保護者の皆さんは、お子さんの意思決定を尊重してあげてください

- 荒川区立中学校への進学を希望しているお子さん、中学受験を希望しているお子さん、いずれにしても、他人に左右されるのではなく、自分の意思で進路決定し、その結果に責任をもたせるようにしてあげてください⇒それが大きな成長につながります。